

質問； 打者・打者走者がアウトになるケースを教えてください。

回答； ルールを理解する上で用語の意味を理解することも大切です。打者、打者走者、走者の違いを理解してください。

- 打者 …… 打撃を完了していないプレイヤー
- 打者走者 … 打撃を完了したが、まだアウトになっていないか、または一塁に達していないプレイヤー
- 走者 …… 打撃を完了したのち、一塁に達し、まだアウトになっていない攻撃側のプレイヤー

「三振」、「スリーバント失敗」、「フェアボールを打ったのち、打者走者が一塁に触れる前に身体または一塁に触球された、或いは、フライの球が捕球されたとき(通常のプレイで最も多く見られるアウト)」等々はよくご存知かと思います。

そこで、ここでは、「こういう場合もアウトになります」というものの内、試合で時々見られるもの取り上げてみます。

- 打者の片足でも完全に打者席(バッターボックス)の外に踏み出したり、本塁に触れたりして打ったとき。
このルールは、打つ意思の有無に関係なく適用されます。次に、「完全に…」ですから、片足の全部が出た場合です。足が打者席の線上にあるときはアウトにはなりません。
ただし、本塁に触れた場合は、少しでも触れていればアウトです。投球を避けようとして転び、偶然、バットに投球が当たった。そのとき、足が本塁に触れていた場合もアウトです。
- バットを手から離して打ったとき。
セフティバントの場合に起こりそうなケースですが、バットを両手から離れたのちに投球に当てる打法です。
- 打者が打者席外に足を踏み出して、捕手の捕球や送球を妨害したとき。
故意かどうかに関係なく、捕手の守備を妨害したと審判員が判定した場合です。
打者席内の場合でも捕手の守備を妨害したと審判員が判定した場合はアウトになります。

※ご参考

一死走者一・三塁の場面。打者は空振り三振したが、一塁走者は二塁へ盗塁した。このとき、三振した打者が勢いで本塁上に倒れ、捕手は二塁へ送球でき

なかった(守備妨害)

→この場合は、本塁にもっとも近い走者、即ち三塁走者もアウトになります。

(アウトになったプレイヤーの守備妨害)

○次打者が守備側のプレイを妨害したとき。

打球処理は守備優先です。例.ファウルボールの飛球を捕手が取ろうとしたとき、ネクストバッターサークル内にいた次打者と交錯した。

→守備妨害で打者アウトです。ネクストバッターサークル内の次打者は、守備を妨害しないようにしなければなりません。また、走者をアウトにしようと野手を妨害したときは、本塁に最も近い走者がアウトになります。

○インフィールドフライが宣告されたとき。

別の機会の説明します。

○打者走者が打球を処理しようとしている野手の守備を妨害したり、送球を故意に妨害したとき。

例 ファウルボールの飛球を一塁手が捕球しようとしたとき、打者走者と交錯した。→打球処理は守備優先 ボールデッド・打者走者アウトです。

○打者走者がスリーフットレーンの外側を走って一塁で送球を処理しようとしている野手の守備を妨害したと審判員が判断したとき。バントやキッチャー前ゴロの場合、時々起こり得るケースです。

※スリーフットレーンとは…

本塁と一塁との間の走路で、その中間地点から一塁まで、ファウルラインと平行に引かれたラインの内側で、スリーフットレーン内を走っていた打者走者に送球が当たってもアウトにはなりません。

※スリーフットレーン内に上がったファウルボールを一塁手が捕球しようとしたとき、スリーフットレーン内を走っていた打者走者と交錯した場合→打球処理は守備優先、ボールデッド・打者走者アウトです。

○フェアボールが打者走者の持っているバットや身体に触れたとき。

打者走者の足の一部でも打者席の外の地面に触れたのちは、たとえもう一方の足が打者席内に残っていても、フェア地域で打球が打者に触れればアウトです。

○打者走者がフェア地域内でフェアボールに再度バットを当てたとき。

打って落としたバットに転がってきた打球が触れた場合、或いは、落としたバットが偶然、フェアボールに触れた場合は成り行きです。ファウル地域で触れた場合はファウルボールです。

○打者走者が野手の触球をさけようと本塁方向へ後ずさりしたとき。

立ち止ったままはアウトにはなりません(ボールインプレイ)